

令和元年度  
第2回 苫小牧市航空機騒音対策協議会  
会議録

令和元年11月25日（月）

午後6時30分

リサイクルプラザ苫小牧 2階会議室

## 会 議 次 第

### 1 開 会

### 2 会長挨拶

### 3 部長挨拶

### 4 議 題

#### (1) 報告事項

##### ア 米軍再編に伴う米軍機訓練移転について

①「米軍再編に伴う米軍機訓練移転」に関する主な経過について 【資料 1-1】

②米軍再編に係る各基地の訓練移転経過について 【資料 1-2】

③沖縄県の負担軽減調査結果について 【資料 1-3】

イ 日豪共同訓練について 【資料 2】

##### ウ 航空機事故関連について

① 令和元年度（上期）航空機の部品落下事案について 【資料 3】

エ 令和元年度要望活動結果について 【資料 4】

オ 北海道における空港経営改革について 【資料 5】

カ 新千歳空港における最近の動向について 【資料 6】

#### (2) 協議事項

ア 令和元・2年度再編関連訓練移転等交付金事業について 【資料 7】

### 5 その他

○ 協議会委員 ※敬称略

出席者 (11名)

会長	丹羽 秀則	委員	小倉 巖	委員	竹田 秀泰
副会長	星野 邦夫	〃	永谷 俊文	〃	三海 幸彦
委員	丹治 秀一	〃	山端 豊城	〃	松永 博明
〃	丹治 秀寛	〃	佐野 輝幸		

---

欠席者 (8名)

副会長	丹治 敏男	委員	広瀬 悦雄	委員	山崎 洋一
委員	松重 茂雄	〃	星野 岳夫	〃	石原 幸雄
委員	越川 慶一		牧田 俊之		

---

○ 事務局 出席者 (12名)

総合政策部	部長	木村 淳	環境衛生部	部長	椿 勇喜
まちづくり推進室	室長	柴田 健太郎	〃	次長	鈴木 正毅
空港政策課	課長	伊藤 貴文	環境保全課	課長	深山 満展
空港政策課	主査	銅 真	〃	課長補佐	佐藤 紳
〃	主査	蠣崎 絵美	〃	主査	櫻井 理博
〃	主査	込山 寿明	〃	技師	木原 繁樹

## 令和元年度 第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会 会議録

### 1 開会

#### ◇事務局

皆様お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

定刻となりましたので、只今から令和元年度第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております空港政策課の伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開催にあたりまして、協議会を代表して会長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

### 2 会長挨拶

#### ◆会長

皆様お晩でございます。大変寒くなってまいりました。

本日は、騒音対策協議会でございます。

相変わらず、新千歳空港は混雑しており、行くたびに道路状況が変わるため、戸惑うことが多々ありますけれども、早く成長してほしいと思っております。

国際航空便が多くなり、ターミナルが拡張されて、現在、誘導路を工事しておりますが、苫小牧側は橋のアンダーパスあたりが少し架かるくらいでございますけれども、ほとんど千歳側というところであります。

また、今回も航空機の遅延対策をはじめ、要望活動に行ってまいりました。国土交通省、防衛省、国交省副大臣や防衛省政務官にもお会いすることができました。

特に、防衛省については、時間に限りがあるのにも関わらず、政務官とじっくりとお話しができました。国土交通省も同様です。そのため、それなりの成果はあったであろうと思っております。

そういった中、本日の次第については、先ほど申し上げました関連についてでございます。防衛関係の予算がしっかりとついておりまして、その行方を説明していただくことと、また先日、航空機の部品落下の問題がありました。

今年については、日豪共同訓練、それから戦車公道もございましたが、そう大きな反響はなかったと聞いております。そのようなことで、何とか平和に終わってきたこの1年であったと思っています。

本日も、十分に議論を頂きまして、8時頃までには終了したいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

#### ◇事務局

ありがとうございました。

続きまして、総合政策部長からご挨拶申し上げます。

### 3 部長挨拶

#### ◇総合政策部長

皆様どうもお晩でございます。総合政策部長の木村でございます。

皆様方には日頃より、市政の推進、並びに新千歳空港や千歳飛行場を巡る様々な課題に対しまして、特段なるご協力を頂いておりますこと、この場をお借りし、厚くお礼を申し上げる次第であります。

後ほど報告事項の中でご説明をいたしますが、先般 10 月に行われました本協議会の要望活動につきましましては、お忙しい中、多くの委員の皆様に参加を頂きまして、改めて深く感謝を申し上げます。

また、先ほど、会長からも話がありましたが、9 月 24 日から 10 月 3 日まで行われました、日豪の共同訓練につきましましては、航空自衛隊とオーストラリア軍の戦闘機が参加する、国内で初めての共同訓練でございましたけれども、事故・事件等はなく、無事終了したところでございました。

本日はこのほか、報告事項といたしまして「沖縄県の負担軽減調査結果」、或いは「航空機部品落下事案」などについて、ご説明をさせていただきます。

その他、協議事項といたしまして、「再編関連訓練移転等交付金事業」につきましまして、ご協議させて頂きたいと考えております。

本日、委員の皆様には大変ご苦勞をお掛けしますが、よろしくお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ◇事務局

この後につきましましては、座って進めさせていただきます。

開会に先立ちまして、すでにご承知の方もおられると思いますが、先日、本協議会の三海幸彦委員が地方自治功勞で、旭日小綬章を、また、本日所用で欠席でございますが、石原幸雄委員が自治貢献者表彰を受賞されました。

三海委員につきましましては、この間、市議会議長として議会の円滑な運営に貢献するとともに、各種委員会の委員長を歴任し、地方自治の伸展に寄与されました。また、平成 13 年より現在まで東開町の町内会長としてご活躍されており、当該地区の発展のため多大な貢献をされております。

次に、石原委員につきましましては、平成 11 年 5 月以来、20 年間にわたり本協議会委員として尽力され、航空機騒音の発生源対策及び空港周辺対策について深く関わり、本市のまちづくりに多大な貢献をされております。

この度は誠にめでたうございます。

続きまして、事務連絡といたしまして、丹治敏男副会長、松重委員、星野岳夫委員、牧田委員、越川委員、山崎委員、石原委員から、本日所用のため欠席との連絡を受けております。また、広

瀬委員の到着が遅れておりますので、ご報告いたします。

次に、配布資料の確認をさせていただきます。

配布資料につきましては、資料1-1～7を事前に配布させて頂いておりますので、ご確認をお願いいたします。配布漏れなどございましたら、お知らせ願います。

なお、資料2の日豪共同訓練につきまして、防衛省が測定した騒音測定結果に一部修正が生じたので、恐れ入りますが、席に配布させて頂いておりますものと、差し替えをお願いいたします。

それでは、これからの議事進行につきましては、協議会規約に基づき、会長が議長として進めさせていただきます。

なお、議事録作成の関係上、発言に際しましては、マイクのご使用をお願いいたします。また、マイク使用後はスイッチをお切りくださいますようお願いいたします。

それでは、会長、よろしくをお願いいたします。

#### ◆会長

それでは、早速議事に入らせていただきます。先ほど申し上げましたように、8時を目途として進行したいと考えておりますので、ご協力くださるようお願いいたします。

それでは、報告事項については、アからウ、エからカの、2つに分けて説明をし、その都度、ご質問ご意見をお伺いしたいと思っております。

それでは(1)報告事項アからウにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

## 4 議題

### (1) 報告事項

#### ア 米軍再編に伴う米軍機訓練移転について

##### ◇事務局

私からは、報告事項アの「米軍再編に伴う米軍機訓練移転」について、ご説明いたします。

はじめに、①「米軍再編訓練に伴う米軍機訓練移転」に関する主な経過について、1ページの資料1-1をご覧ください。この表は、前回、令和元年6月4日開催の本協議会以降の経過について、記載しております。内容については、この後ご説明させていただきます。

次に、②米軍再編に係る各基地の訓練移転経過について、2ページの資料1-2をご覧ください。こちらは、米軍再編訓練の経過について、2ページから6ページまで、米軍再編に係る各基地の訓練移転経過について、各年度別で載せております。

6ページでございますが、こちらは令和元年度、現在まで4回の訓練移転が実施されており、うち国内では2回、グアムへの訓練移転が2回実施されております。

次に7ページから8ページにつきましては、10月1日から10月4日に行われた三沢飛行場から小松基地への訓練計画概要及び調査結果、また9ページにつきましては、10月10日から11月4日に岩国飛行場から三沢基地への訓練計画概要でございますが、調査結果につきましては、調

査中でございますので、次回の協議会でご報告いたします。

なお、双方とも訓練期間中における事件・事故等はなかったと伺っております。

次に、③沖縄県の負担軽減調査結果について、10ページの資料1-3をご覧ください。

こちらは、嘉手納飛行場に隣接しております沖縄市、嘉手納町、北谷町にアンケート調査を実施したものでございます。

照会項目(1)「平成30年度の環境基準超過日数」でございますが、平成30年度は前年度と比較しますと、各市・町とも、減少しております。

次に、照会項目(2)の「平成30年度に嘉手納基地へ飛来した外来機の機数について」ですが、沖縄防衛局からの情報提供などによりますと、少なくとも45機の飛行を把握しているとのことでございます。

次に、照会項目(3)の「平成30年度の訓練移転実施により、負担が軽減されたか考えるか。」との質問に対し、沖縄市からは「常駐機の訓練移転による負担軽減がなかなか実感できない」、

嘉手納町からは「一部期間を除いて、外来機の飛来等があり、負担軽減を実感するまでに至らなかった。しかし、過去には訓練移転期間中の航空機騒音が、今回以上に激減し効果を実感した例もあり、そのような状況が多く再現されるよう、政府及び関係機関に対し要請を行っている」、

北谷町からは「騒音に関する苦情が増加していることから、依然として騒音被害は軽減されていない。」との回答でございました。

11ページから13ページには、各自治体の代表的な観測地点での年度別、月別の騒音観測回数とW値の数値データ及びグラフを、また13ページの右側には、嘉手納基地への外来機数を掲載しております。

以上で、報告事項「米軍再編に伴う米軍機訓練移転について」の説明を終わらせていただきます。

## **イ 日豪共同訓練について**

### **◇事務局**

続きまして、私のほうから、報告事項イの「日豪共同訓練」につきまして、14ページの資料2をご覧ください。

こちらは、9月6日付けで、航空幕僚監部から通知されました「日豪共同訓練の実施について」でございます。

はじめに、1の目的でございますが、「豪空軍との共同訓練を実施することにより、部隊の戦術技量の向上及び相互理解の促進並びに防衛協力の深化を図る」ものとなっております。

次に、2の期間につきましては、9月11日から10月8日までで、そのうち戦闘機訓練は、9月24日から10月4日の、土を除いた9日間となっております。

次に、3の訓練実施場所につきましては、千歳基地、三沢基地及び同周辺空域、4の実施部隊につきまして、(2)の参加規模につきましては、航空自衛隊のF-15戦闘機10機及びF-2戦闘機3機、オーストラリア空軍は、F/A-18戦闘機7機などで、人員は約150名でございます。

なお、F/A-18 につきましては、米軍再編訓練移転における、岩国基地所属の F/A-18 と同型機となります。

次に、5 の訓練内容につきましては、要撃戦闘訓練などとなっており、米軍再編訓練移転における戦闘機戦闘訓練等と同内容となっております。

また、6 のその他に記載されておりますとおり、本訓練は、平成 30 年 10 月の日豪外務・防衛閣僚会合、いわゆる 2+2 により、2019 年の適切な時期に、日豪による初の共同訓練を実施するものであり、オーストラリア空軍と国内を拠点に実施するものとなっております。

以上が通知内容でございますが、この度の共同訓練は、市が受入れ判断をして実施いたします「在日米軍再編訓練移転」とは違い、国として決定し、千歳基地で通常行われている訓練の範囲内での訓練という位置づけでございましたが、市といたしましては、市民の不安等を軽減できるよう、市民への情報発信等につきましては、日米再編訓練移転にできる限り準拠した形で行う予定としたところでございます。

続きまして、「日豪共同訓練の実施結果」につきまして、裏面 15 ページに基づき、ご説明いたします。

はじめに、1 の訓練期間につきましては、訓練全体としては、9 月 11 日から 10 月 8 日までの期間で行われ、うち戦闘機訓練が 9 月 24 日から 10 月 3 日の土を除く 8 日間で実施されました。

次に、2 の参加規模につきましては、記載のとおりでございますが、オーストラリア空軍の参加人員は、F/A-18 戦闘機や空中給油機などのパイロットや整備員、その他関係者など約 150 名となっております。

次に、3 の訓練回数でございますが、戦闘機訓練期間中の訓練は計 19 回行われ、4 の騒音測定結果につきましては、後ほど詳しくご説明いたしますが、観測された最高値はそれぞれオーストラリア空軍の F/A-18 で 98.1dB、航空自衛隊 F-15 で 86.7 dB となっております。

次に、5 の市民からの問い合わせにつきましては、苫小牧市で 3 件となっており、騒音に関する内容が 2 件、飛行経路に関する内容が 1 件となっております。なお、千歳市と北海道防衛局につきましては、問い合わせがなかったと伺っております。

次に、6 の豪軍人の行動につきましては、千歳市内に宿泊し、外出もしてございましたが、苦情やトラブル等はなかったと伺っております。

次に、7 の市の対応といたしましては、北海道防衛局及び第 2 航空団に対して、航空自衛隊の訓練と同様に、市街地上空飛行及び低空飛行を避ける等の申入れを実施したほか、市民への情報発信につきましては、航路下地域へのちらしの全戸配布や、飛行情報及び騒音測定結果をホームページに掲載するなど、しっかりと市民周知を行うことができたと考えております。

最後に、8 の主な検証結果・改善事項につきましては、記載のとおりでございますが、本訓練につきましては、航空自衛隊とオーストラリア空軍の戦闘機が参加する、国内初めての共同訓練でございましたが、事件・事故等無く、無事終了しており、今後も千歳基地における訓練があった際には、引き続き市民の安全・安心に努めてまいりたいと考えております。

私からは、以上でございます。

## ◇事務局

環境保全課の櫻井でございます。

私からは、「日豪共同訓練に伴う騒音測定結果について」を説明させていただきます。本日、差し替え資料として配布させていただきました、資料の18ページをお願いいたします。

こちらには苫小牧市、北海道、防衛省の測定から得られました、訓練期間中の各局での騒音最高値を掲載しております。

訓練期間中の最高値ですが、オーストラリア軍のF/A-18につきましては、苫小牧側からの着陸時に観測されました、植苗公園局の98.1 dBでありました。自衛隊機のF-15につきましては、苫小牧側への離陸時に観測されました、丹治沼局での86.7 dB ございました。

次に、19ページをお願いいたします。

こちらは、訓練期間中の日ごとのLden 値を範囲で示したものでございますが、こちらの値は、自衛隊機と民航機を合わせた値となっております。表の右側には、平成30年度のLden 日最大値を示しております。

訓練期間中で最も大きかった値は、太枠で囲んであります61dB でありましたが、各局の訓練期間中の最高値を30年度の最高値と比較しましても、30年度のLden 日最高値を超える結果は見られませんでした。

最後に20ページをお願いいたします。以上の結果を踏まえた「評価」といたしまして、今回の共同訓練における騒音につきましては、騒音測定値及び日Lden 値から見ましても、第2航空団が行っている「通常訓練の範囲内であった」ということで評価しております。

私からの説明は以上です。

## ウ 航空機事故関連について

### ◇事務局

続きまして、報告事項ウの航空機事故関連についての①「令和元年度（上期）航空機の部品落下事案について」ご説明いたします。

21ページの資料3をご覧ください。こちらは、本年4月から9月までの上期分につきまして、10月17日付けで千歳基地から通知されたものでございます。

裏面の22ページをご覧ください。上期分の千歳基地における部品落下事案は1件ございました。発生日は「令和元年6月13日」、機種は「RF-4E」いわゆる偵察機でございます。落下部品の部位は、23ページから24ページにイラストと写真を載せておりますが、「右インボードドア・プレートアッシー」で、偵察機の車輪を格納するドアにある、異物混入防止の金属製のカバーが落下したものでございます。

なお、落下部品の大きさ及び形状については、記載のとおりとなっており、着陸後の点検で紛失したことが判明しております。

第2航空団の説明によりますと、千歳基地から青森県むつ市の大湊分屯基地を經由し、木古内を通過後、洞爺湖から千歳基地へ飛行中に落下したと想定しており、落下場所は特定できており

ませんが、現在のところ被害の報告はないと伺っております。

また、今後の改善策として、原因の究明とともに、引き続き、当該部位等の飛行前、飛行後による、入念な安全点検を徹底し、不具合の再発防止に努めてまいりたいとのごことでございました。

この度の部品落下事案を受けまして、本市では第2航空団に対し、同型装備品の整備及び管理の徹底を行うとともに、事故の原因究明及び再発防止策を速やかに行う旨などを、強く申し入れております。

以上で、報告事項ウの説明を終わります。

#### ◆会長

それでは、ウまで説明をいただきましたので、皆様方からご意見ご質問等をお受けしたいと思います。A委員、どうぞ。

#### ◆A委員

まず、この日豪共同訓練については、去年実施される予定でありましたが、胆振東部の地震があった為に延期になったと思いますけれども、先ほどの説明の中で、日米訓練の話がありました。

沖縄軽減の日米再編の訓練時は、町内にブリーフィングをはじめ、そういう説明があったのですが、今回は、初めての日豪訓練については、150 人もの隊員が来ていることと、過去に提供されたデータの中で、F/A-18 というのは、非常に音のうるさい戦闘機ということは承知していたわけですが、これは訓練空域が三沢沖なのです。積丹沖とかそういうものではありませんので、ほとんどこの上空を、どちらから行っても通ります。それにも関わらず、このようなことで、今後も行っていくのかと思います。これが、1つ目の質問でございます。

もう1つは、部品落下についてです。今、自衛隊機の部品落下を説明していただきましたが、民航機については、1つも無かったのでしょうか。

過去には民航機の何かが飛んだという事案がありました。前回の航空機騒音対策協議会の際には、「コースを逸脱して飛行している」という質問をしたのです。

太平洋沖まで行かず、函館方面に苫小牧市上空を飛行している民航機があります。ただ、コースを逸脱したから悪いという問題ではなくて、こういう民航機についても、部品を落としたり、全く無いかと言ったらそのようなわけでもないのです。

市街地上空を飛行する際に、民航機の部品落下について、1件も無かったのかどうか質問します。去年も、民航機の何かが飛んだとかがあったわけですが、これは戦闘機だけを、防衛の自衛隊機だけを指摘していますけれども、そういう報告が本当に無かったのと思い、ご質問しました。以上です。

#### ◆会長

2つ質問がございました。

## ◇事務局

まず、部品落下の件につきまして、民航機の事案が無いのかという話でございましたけれども、全国的には民航機の事案というのはあると伺っておりますが、新千歳空港周辺における民航機の部品落下事案につきましては、今のところ無いと伺っております。

次に、先ほど申し上げました通り、日豪共同訓練については、沖縄の負担軽減を主な理由といたしまして、市として受け入れ判断を行って、恒常的に行われる在日米軍再編訓練とは異なり、航空自衛隊の戦術技量の向上等を目的として、国で決定して、航空自衛隊が本来行う訓練の範囲内で、2国間でその都度調整される訓練でございました。

そのため、市といたしましては、千歳基地で行われている通常訓練と同様の対応といたしまして、本協議会の開催や、住民説明会等は開催せずに、通知のみの対応とさせていただいたところでございます。

しかしながら、地域の方々にとっては、米軍再編訓練と同じ訓練に感じるものと受け止めておりまして、市といたしましても、航路下地域の方々の不安等を軽減できるように、できるだけ米軍再編訓練移転に準拠した形で、北海道防衛局でしたり、或いは、第2航空団に申し入れを行うほか、住民の方々への情報発信といたしまして、ホームページ、新聞の市役所だよりに掲載をしたほか、航路下3地区にちらしを全戸配布しまして、市民の安全・安心に万全を尽くしたところでございます。

先ほど、空域の話がございましたけれども、今回の訓練につきましては、三沢沖もそうですが、日本海側、積丹沖、米軍再編訓練と同様の同じ空域でやっているところでございまして、引き続き、今後このような訓練があった際には、航路下地域の方々に対する周知についても、しっかりとやってまいりたいと考えております。

## ◇事務局

すみません。補足なのですけれども、まちづくり推進室の柴田でございます。

先ほど、空域のお話がございました。

今課長が答弁しましたが、今回、19回日豪共同訓練で訓練を行ったのですけれども、日本海側に19回中17回、太平洋側に2回ということで、基本的には千歳基地を出て、すぐ支笏湖側に旋回して支笏湖上空を経由して、日本海のほうに入っていく、帰りは支笏湖から千歳基地のほうに入るという形で、あまり苫小牧のほうには影響はなかったという状況でございます。

## ◆会長

はい、A委員。

## ◆A委員

なぜ、そういう質問をしたかと言うと、まず日豪の件です。要するに、防衛省は新たに日米の他に日豪についても、訓練を行うというように、どんどん周りの状況から見ても、訓練は必要だ

ということでやるのでしようけれども、日豪は初めてです。

そのため、限りなくこのような訓練が、毎年か2年おきとか、増えていくわけですから、やはりどこかできちんとした監視の目をしていかないといけないと思います。

この資料に書いている限りでは、150人も隊員が来ている中、苫小牧に来たか千歳市内だったのかも、まだはっきりわからないような状況、これは千歳市内のホテルに泊まったか、自衛隊の内部にいたのかも、情報はわからないわけですよ。

僕の判断では、千歳市内ですから、自衛隊の中に居たのか、ホテルに居たのかはわからないし、そういう情報も全然わからないなと思います。今後もまたあるのであれば、やはり、苫小牧市のスタンスとして、どういう形で行くのかということは、決められたら良いと思います。

もう1つ、部品落下でもそうですけれども、千歳で、民航機の緊急着陸は今期何機あったのですか。

#### ◇事務局

民航機の緊急着陸件数については、手元に資料がございませんので、今お答えすることができません。申し訳ございません。

#### ◆A委員

1機も無かったとは、そんなことはあり得ないのです。その度にどこかが計器トラブルですとか色々あります。それと、外国機のコースで千歳に緊急着陸したということが、報道上でもあるわけです。

要するに、緊急着陸するということは、機体に何か不備があって緊急着陸をしているわけです。

それが苫小牧側から来ているか、千歳側から来ているのかはわかりませんが、機体に何かしらの異常があるから、中のお客さんが異常を起こした場合もあるのかもしれないけれども、そういう情報についても、やはり緊急に着陸するわけですから、今のところは特別な事故はないわけですが、あったときにどうするのかということなのです。

それで、その機体が部品を落としたのか、その情報までも無いということであれば、今後、これだけ民航機の便数は増えますから、そこもチェック機能を良くされたらいいと思います。この緊急着陸というのは、航路下の住民としては非常に不安です。以上です。

#### ◆会長

はい、事務局。

#### ◇事務局

今ほどの、緊急着陸の件については、すみません。私どもで情報を集めていなかったもので、今のところ何かあれば、報告いただける形になっておりますけれども、もう一度しっかり確認をして、次回以降の協議会等で報告できる体制を取りたいと思います。

それから、日豪共同訓練につきましては、今後もまたあるのではないかとすることは、地域の方々もご心配をされると思いますし、そういう懸念を抱かれるのではないかとすることで、私も、今回確認を取らせていただきました。

2+2の報道発表資料の中においても、2019年度に限って行うと書かれておりましたが、これは前回、胆振東部地震があった際の2018年に1回限りということでしたが、結局中止になったので、次の年で行いました。

今後、訓練が行われるのかという質問を北海道防衛局に何度も行いましたが、今後のことはわからないとの回答でございました。

今後のことはわからないので、今回限りということをおっしゃっておりますので、ここはしっかりその言葉を信じて、対応したということになっております。

先ほど、千歳のどこに泊まったのかというお話もございましたが、オーストラリア空軍につきましては、千歳市内の民間のホテルに宿泊したと伺っております。

このような情報発信につきましては、今後、訓練がある際には、地域の方々、それから騒音対策協議会の委員の方々に、事前にわかるように情報提供の仕方を工夫したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

## ◆会長

部品落下というのは、小さいものでも高い空から落ちると非常に凶器になりますから、緊急着陸も含めて、今答弁あったように調査していただきたい。

次に、報告事項エからカについて、事務局説明をお願いいたします。

## エ 令和元年度要望活動結果について

### ◇事務局

報告事項のエ「令和元年度 要望活動結果」につきまして、25ページの資料4に基づきご説明いたします。

始めに、26ページをご覧ください。

今年度の要望活動につきましては、10月7日に千歳・札幌、8、9日に東京と3日間にわたり、国土交通省・防衛省の関係機関並びに地元選出国會議員への要望活動を行っております。又、エアドゥの本社を訪問し、遅延便に関する意見交換を実施しております。

千歳・札幌には、会長をはじめ委員9名、東京には委員5名のご参加をいただいております。日程の詳細につきましては、27ページに記載のとおりでございます。

次に、要望先につきましては、28ページ、29ページをご覧ください。こちらに記載の国會議員及び、国土交通省、防衛省の関係各位に要望書を提出しております。

要望先での対応者につきましては、30ページのとおりでございます。今年も堀井学衆議院議員にご尽力をいただき、国土交通省では、青木一彦国土交通副大臣、防衛省では、渡辺孝一防衛大臣政務官に直接要望書を手渡し、意見交換をしたほか、各関係部署へ要望を行っております。

次に、要望書につきましては、31 ページから 36 ページのとおりでございます。次に、37 ページの国土交通省の回答要旨でございますが、要望事項 1 の飛行コースにつきまして、新千歳空港事務所からは、「しっかりと対応していく必要があり、引き続き、航空会社に対して適切な指導をしていきたい」との回答でございました。

次に、要望事項 2 の「運航自粛時間の抑制」につきましては、「航空会社に継続的に要請していきたい」との回答でございました。

要望事項 3 「低騒音機種への切替え」につきましては、「機材の発生源対策が重要な手段であると認識しているので、今後も航空会社に対して、低騒音機の導入を促していきたい」とのことです。

要望事項 4 「外国貨物機の騒音軽減」につきましては、「現在、国内線及び国際線については、貨物専用機の定期便運航はないが、今後飛行計画が策定されたときは、航空会社に対して指導を遵守してまいります。」とのことです。

要望事項 5 の「航空機等の安全管理の徹底、また、航空機事故に関する情報提供」につきましては、「安全運航の確保が最重要課題と認識している。今後も安全監査を通じて、整備点検等の用務の確認を行うなどし、地域の方が安心して生活できる環境を作っていきたい」とのことです。

なお、東京航空局、国土交通省航空局も同様の回答となっております。

次に、要望事項には載せておりませんが、美沢川の水質問題と航空従事者の飲酒問題について伺っております。

美沢川の水質問題については、融雪剤の使用量増について伺ったところ、「薬剤は、1 番環境に優しいものを使用しており、できるだけ薬剤を少なくする効果的な方法を継続していきたい。」

また、「現在使用中の蟻酸系以上に環境にやさしく、効果的なものがでてくればお知らせしたい」との回答でございました。

また、航空従事者の飲酒問題については、再発防止対策について伺ったところ、「飲酒事案が発生した航空会社に対して処分を行った。」また、「飛行勤務の開始前 8 時間より以前であっても、業務に支障を及ぼす過度な飲酒は禁止することや、出勤前にアルコールチェックをする自己管理を促す体制を構築して、再発防止を図っていきたい」との回答でございました。

次に、防衛省の回答要旨でございますが、39 ページをご覧ください。要望事項 1 の「市街地上空の低空飛行」につきまして、第 2 航空団からは、「飛行訓練にあたっては航空法等を順守して飛行訓練を行っている。他の基地から来たパイロットに対してもブリーフィングなどで、教育指導を行っており、今後も飛行の安全を念頭に置き、市街地上空の低空飛行を回避するよう配慮していく」とのことです。

要望事項 2 の「通常訓練の離着陸コース」につきまして、第 2 航空団からは、可能な限り騒音の軽減に配慮していくが、「天候の状況等により、安全確保のため雲を避けるなどの飛行をすることがあることをご理解願いたい」との回答でございました。

次に、40 ページをご覧ください。要望事項 3 の「運航自粛時間における飛行」につきまして、

第2航空団からは、「深夜・早朝の飛行訓練は自粛しているが、緊急発進や災害派遣等により、飛行する場合があることをご理解願いたい」とのことでした。

次に、要望事項4の「土日祝日の飛行」につきまして、第2航空団からは、「通常の飛行訓練では、土日祝日は計画していないが、上級部隊が計画する演習等については、一部、土日等に飛行する場合がありますので、ご理解願いたい」とのことでした。

要望事項5の「航空機等の安全管理の徹底、また、航空機事故に関する情報提供」ですが、第2航空団からは、「平素より定期的な整備、飛行前後の点検等を実施しており、引き続き、安全確保を強化していく。万が一事故等が発生した場合は、苫小牧市への速やかな情報提供を心掛けたい」とのことでした。

次に、防衛省の住宅防音助成に関することをご紹介します。41ページをご覧ください。北海道防衛局からは、「75W未満の取扱いについては、住宅防音事業の今後の在り方に関わる課題で、全国の住宅防音事業の進捗状況等を踏まえ、今後の検討課題と考えている」とのことでした。

次の42ページから47ページまでは、要望活動の際に、委員の皆様から出された、主な質問に対する回答をまとめたものがございますので、後ほどご参照願います。

最後でございますが、この度の要望活動に合わせまして、エアドゥの本社を訪問いたしまして、遅延便に関しての意見交換を実施しております。

46ページ下段から47ページをご覧ください。

エアドゥからは、「遅延便については、エアドゥの路線減少により、ボーイング767の運行を増強、継続させたところ、2時間以上あった駐機時間が40分程度に短縮してしまったことが大きな理由となっているが、高い問題意識を持っており、駐機時間の確保や、新しい機材の導入、保安検査場の通過時間を延長する等、様々な取り組みをし、努力してまいりたい」というお話をいただいたところでございます。

以上が要望結果でございますが、今回の要望活動においては、国土交通省では青木副大臣、防衛省では渡辺政務官との面談が実現し、騒音の実態や日頃感じている不安など、地域の声をしっかり伝え、認識を共有することができたと感じております。

各要望項目につきましては、航空機の運用や騒音対策に関するものが多く、すぐには解決できない問題ではないため、今後においても政務三役等との対話を通じて、粘り強く働きかけてまいりたいと考えております。

以上で、令和元年度の要望活動結果の報告とさせていただきます。

## オ 北海道における空港経営改革について

### ◇事務局

私からは、資料5 北海道における空港経営改革についてご報告いたします。

48ページでございますが、こちらは、北海道における空港経営改革について、本年6月4日の本協議会以降における、主な経過をお示したものでございます。

内容については、この後の資料でご説明いたします。

はじめに、49 ページをご覧ください。

7月3日の資料につきましては、8月9日公表資料と同じ内容となりますので、ご了承願います。

こちらは、8月9日の「北海道内7空港特定運営事業等の優先交渉権者選定に係る客観的評価結果の公表について」でございます。

資料の中段になりますが、第二次審査の得点につきましては、東京建物株式会社が代表企業となる「スカイセブン」が239.5点、北海道空港株式会社が代表となる「北海道エアポートグループ」が279.4点となり、北海道エアポートグループが優先交渉権者として選定されております。

今後のスケジュールにつきましては、10月31日の公表資料でご説明いたします。

次に、50 ページをご覧ください。こちらは、優先交渉権者の北海道エアポートグループにおける提案概要で、50 ページから52 ページまでが7空港全体の概要となっております。

50 ページ上段ですが、30年後の7空港旅客数は、4,584万人を目指すほか、4つの戦略的事業方針を掲げ、取り組むものとしております。

次に、53 ページから55 ページが新千歳空港に対する提案概要でございます。

はじめに、53 ページをご覧ください。こちらは、新千歳空港の30年後における将来イメージとなっており、エアライン拠点化を促進する国内・国際線共用旅客ビルの新設や立体駐車場の整備などが示されております。

また、資料左下でございますが、2049年度に、旅客数を3,537万人にする目標が掲げられております。

次に、54 ページをご覧ください。資料の右下でございますが、地域との連携・地域共生では、「空港周辺地域への環境対策」で、環境対策・地域共生の専門部署を設置するほか、従来と同等以上の水準の助成事業を継続実施することとしております。

次に、55 ページをご覧ください。資料の右上でございますが、30年間に約2,950億円を設備投資することとしております。

56ページから67ページにつきましては、稚内をはじめとした、6空港の概要となっております。

以上が、この度示された提案概要でございます。

次に、68 ページ目をご覧ください。

こちらは、10月31日に公表されました「北海道内国管理4空港特定運営事業等に係る公共施設等運営権実施契約の締結等について」でございます。

資料の上段、太枠でございますが、国土交通省は、新千歳空港を含む国管理4空港について、優先交渉権者が設立した北海道エアポート株式会社と公共施設等運営権実施契約を締結しております。

また、資料中段の「公共施設等運営権実施契約」につきましては、契約締結日が令和元年10月31日、契約期間が30年となっております。

事業開始予定日につきましては、令和2年1月15日に7空港一体のビル経営開始、同年6月1日の新千歳空港運営事業開始を皮切りに、10月1日旭川空港、令和3年3月1日に稚内をはじめとした、5空港の運営事業が開始になる予定となっております。

次に、69 ページ目をご覧ください。

こちらは、北海道内 7 空港における一括民間委託に係る「札幌国際エアカーゴターミナル株式会社の株式譲渡金収入」についてでございます。こちらにつきましては、平成 30 年 4 月の本協議会においてご説明しておりますので、黒丸の 1 つ目から 3 つ目までは、後ほど、ご参照してください。

続いて、黒丸の 4 つ目、5 つ目でございますが、譲渡収入額につきましては、保有株は 300 株、1 株当たり 77,563 円でございますので、23,268,900 円となっております。

続いて、黒丸の最後でございますが、株式譲渡収入の取扱いにつきましては、財政調整基金へ積立し、株式出資当初の目的に沿った空港関連事業や空港と関連性が強い、観光・産業の振興に資する事業などの、財源に充ててまいります。

最後に、資料はございませんが、今後の予定につきましては、1 月中旬に、空港運営事業者であります北海道エアポート株式会社と北海道、そして 7 空港所在自治体との間において、7 空港を核とした広域観光の振興や地域との共生などについて示す、パートナーシップ協定を締結する予定となっております。

また、各空港別の運営に関する協議会につきましても、今後設定される予定となっており、今後、地域共生事業などの詳細について、北海道エアポート株式会社と協議していくことになっております。

以上で、報告事項 4「北海道における空港経営改革について」の説明を終わらせていただきます。

## **カ 新千歳空港における最近の動向について**

### **◇事務局**

続きまして、資料 6「新千歳空港における最近の動向について」ご説明いたします。

こちらは、国土交通省東京航空局保安部管制技術課から説明を受けました、令和 2 年度における「千歳ボルデメ更新に伴う仮設ボルデメの整備計画案について」でございます。

はじめに、71 ページをご覧ください。ボルデメと言いますのは、航空機に対し、方位及び距離情報を提供するための施設でございます。中央上段の写真にありますとおり、千歳ボルデメは、ウトナイ湖から約 1 キロ山側に入ったところがございます。

次に、72 ページをご覧ください。この度の工事は、機器の老朽化に伴う更新工事となっております。そのため、既存のボルデメを止める必要がありますので、既存装置の近くに、仮設ボルデメを整備するものでございます。

次に、74 ページをご覧ください。仮設ボルデメにつきましては、既存の千歳ボルデメから、1 キロ程離れた、ウトナイ北 9 丁目に設置するものでございます。

なお、本工事につきましては、平成 25 年度にも同じ場所で、同様の工事を実施しております。

最後に、75 ページをご覧ください。整備計画案としましては、下段の太枠にありますとおり、令和 2 年 5 月に仮設ボルデメの設置工事を着工し、同年 11 月から翌年 2 月まで、仮設ボルデメを

運用いたします。令和3年3月には、仮設ボルデメの撤去を完了する計画でございます。

なお、76ページと77ページにつきましては、参考までに、平成25年度の本工事における資料を添付しております。

今後、工事が近くなりましたら、具体的な作業内容や工程などを含め、地域住民への周知について実施する予定と伺っております。

私からの説明は、以上でございます。

#### ◆会長

それでは、報告事項エからカについて説明をいただきました。このことにつきまして、ご意見ご質問をお受けいたします。

B委員、どうぞ。

#### ◆B委員

これだけの資料を、この短時間で説明をして皆理解をしろと言われても、理解できますか。

ただ、報告したに過ぎない。これから飛行機がまだまだ発展して、この空を利用する上において、このような考え方では、役人として自分の責務を果たしたと思っているのか、聞かせてください。

#### ◇事務局

この度の資料につきましては、大変数も多いですし、それぞれの資料のページ数が多いということで、本日聞いた限りではわかりづらいということで、事前に1週間前に送付をさせていただきました。難しい資料ということで、説明を聞きながらではないと、わからないということもあると思いますけれども、私たちは、この場でご意見をいただくということに、こだわっているわけではございませんので、今後、資料を改めて確認をしていただいで、後日ご連絡をいただいで、私どもは説明に伺いますので、その点をご理解いただければと思います。

#### ◆B委員

私は、そういう意味を言っているのではないのです。苦小牧市として、千歳市に係わることも随分あるし、苦小牧市としてやはり受けていく予算だけは、十分にとってもらうように協力するのが、我々委員の仕事だと思っていますから。

理解するとかしないとか、資料は見ています。ただ、見てもわからないところが沢山ある。

だから、この地域協議会をどうしても功をなすようにするのであれば、1年に2回ではなく4回くらい、やはりもう少し小出しにして、苦小牧の上空をこれだけ使っている状態においては、どの位の補償は貰っても良いということ、理解のできるような説明をしてほしいと思います。

私は、この時間中で大変失礼ですけれども、成田の今いる、23年前です。

植苗のファミリーセンターができたときに、成田の地域住民、7町内会が植苗まで来て、「どう

したらこんなに立派なものができるのですか。」ということを知りました。

それは平成9年の植苗ファミリーセンターの完成祝いの新聞を見て来られて、そう言いましたから、「ここは千歳市と苫小牧市に地域協議会というのができて、そこで審議をしながら航空機騒音に係ること、そしてまた、騒音で地域に迷惑を掛けることを話し合っ、こういう状態になったのですよ。」と言ったら、「いや、私らのところは革マル派が何としても2つの滑走路を造ろうと思っても、反対があり協力できない。」ということでしたから、私はこう言ってあげました。「そうであれば、その文句を言う、力のある人を地域協議会を造ってその中の副会長にでもして差し上げな。そうしたらきっと理解してくれるはずだ。」と言いましたら、3か月後に5つの町内会がまた、お礼に来ました。

「お陰様で2か月後にその革マル派を使っていた地主が協力するようになりました」と。

あの成田の鉄条を外したのは苫小牧市の植苗町内会ですよ。それをちょっと心にしておいてください。一応、駄弁を入れましたが、そんなこともありますから。

もう少し我々の立場を利用しながら、苫小牧市として、今後IRに対しても随分反対意見もありますけれども、日本の国民は、1か月に1回なら1回よりできなく枠をきちんとはめてしまえば、何もカジノは恐ろしくない。

そして外貨をできるだけ確保したほうが良いと思います。パチンコのように野放しでスタートはさせないようにしてほしいと思っております。駄弁を入れましたが以上です。

#### ◇事務局

まず、はじめに、こちら騒音対策協議会になりますので、地域協議会とは別な会議になります。

#### ◆B委員

それはわかっている。

もう1つ言いたいのは、陳情に行ったときに、文書では書いてあるけれども、まとめて行った人達の写真を前はきちんと撮っていたのだけれども、それを撮っていないから。

誰が行ったのかわかりやすくしてください。前は小松さんが団長で行ったときには、防衛省の前とか色々な場所で、全部写真を撮りました。

そういうことは会長、これからやはり心してほしいと思います。それは、本当は違うところで言えばいいのでしょうけれども、そのように気づいております。私は昭和50年から行っております。

#### ◇事務局

要望の写真につきましては、基本的には会長が要望書を出しているものですから、そこしか写真は撮っていないのですけれども、B委員がおっしゃることは、ごもっともでございますので、要望を行った先で必ず全員の写真を撮るということは今後、しっかりやりたいと思います。

## ◆B委員

要するに、1年1年の記念になるから、行った方の誇りだと思う。

## ◇事務局

騒音対策協議会の規約上、年何回という制限はかけておりません。定例で行けば年2回という形になっておりますけれども、米軍再編の訓練移転をする際は、3回、4回という実施も行っておりますので、回数については、資料の案件の量を確認しながら、会長、副会長等とも相談しながら、柔軟に対応していきたいと考えております。

## ◆会長

他の方、ご意見ございましたら、お伺いしますがよろしいでしょうか。

それでは、次に進ませていただきます。

## (2) 協議事項

### ア 令和元・2年度再編関連訓練移転等交付金事業内容について

#### ◆会長

次に、(2) 協議事項アについて説明してください。

#### ◇事務局

それでは(2) 協議事項のア「令和元年、2年度再編関連訓練移転等交付金事業」につきまして、78ページの資料7に基づき、ご説明いたします。

はじめに、令和元年度の事業(案)をご覧ください。

白塗りの事業については、昨年11月の本協議会においてご承認いただきました、現在実施中の事業でございます。その中で、沼ノ端地区の1段目「沼ノ端駅前通り歩道改良工事(シンボルロード)」については、30万円の減、2段目「青翔中学校災害用備蓄倉庫整備事業」については、87万円の減となっております。

また、3地区含む共通の1段目「航空機騒音常時監視システム整備事業」については、750万円の減となっております。

それでは、本日ご提案させていただく網掛けの事業につきまして、上から順に説明いたします。

まず、植苗・美沢地区の2段目、「植苗ファミリーセンタースポーツ器具等整備事業」につきましては、令和元年度からの2か年にかけて行う予定でございます。

ランニングマシンやエアロバイク等のスポーツ器具のほか、老朽化したマッサージチェアの更新を予定しております。交付金につきましては、470万円となっております。

次に、沼ノ端地区の3段目「ウトナイ中学校備品整備事業」につきましても、令和元年度からの2か年にかけて行う予定でございます。

本年4月に新設したウトナイ中学校の卓球台やスクリーンなどの備品の購入を予定しております。

す。

続いて共通の「市立病院医療機器整備事業」につきましては、各種事業の差金等の最終的な調整と考えており、購入する医療機器におきましては、温冷配膳車や輸液ポンプ等を予定しております。

以上が、令和元年度の事業（案）でございます。これらの事業につきましてご承認いただけましたら、今後、令和元年度事業として、早急に進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

続いて79ページをご覧ください。

こちらは、令和2年度の事業（案）でございます。

予定している事業でございますが、

植苗・美沢地区の、1 段目「植苗小中学校備品整備事業」につきましては、植苗小中学校の電子黒板やプロジェクターなどの教育備品のほか、環境整備に必要な除雪機や草刈機等の購入を予定しており、交付金は1,500万円となっております。

2 段目の「植苗ファミリーセンタースポーツ器具等整備事業」につきましては、先ほどご説明したとおり、継続事業でございます。

令和2年度については、筋力トレーニングマシンや体組成測定機の購入を予定しており、交付金は780万円となっております。

次に、その下の沼ノ端地区の、1 段目「沼ノ端駅前通り歩道改良工事（シンボルロード）」につきましては、令和元年度から2か年にかけて工事をする予定で、令和2年度の交付金額は、4,050万円となっております。

2 段目の「ウトナイ中学校備品事業」につきましても、先ほどご説明したとおり、継続事業でございます。

令和2年度については、体育マットや液晶テレビの購入等を予定しております。交付金につきましては、400万円となっております。

次に勇払地区の1 段目「勇払消防分団車両更新」につきましては、老朽化した消防車の更新を予定しており、交付金は3,400万円となっております。

2 段目の「勇払防火水槽新設工事」につきましては、防火水槽に係る国の基準が改正となったことから、基準の貯水量を満たして、耐震性を有する防火水槽を新設する事業でございます。交付金は930万円となっております。

次に、その下の三地区含む共通の「小中学校図書整備事業」につきましては、令和元年度と同様の事業で、小中学校における図書整備でございます。交付金につきましては、1,000万円となっております。

次に共通でございますが、差金等の最終調整弁としているため、金額は記載しておりませんが、「市立病院医療機器整備事業」を予定しております。

令和2年度の再編関連訓練移転等交付金の見込み額を1億6千5百万円と見込んでおりますが、今年度、米軍再編の訓練移転が行われていないなど、交付金が未確定であることから、現在予定

事業に記載しておりますとおり、交付金の合計額を1億2千60万円でございます。

この差額分及び見込み金額を上回る交付金が交付された場合については、資料下段の「その他検討事業」で実施してまいりたいと考えております。

それでは、その他検討事業についてご覧ください。

はじめに、植苗地区の「植苗児童施設整備事業」につきましては、放課後、児童を預けられる施設を検討しております。計画や事業費等については、現在検討中のため、上の表の事業欄に載せておりませんが、内容が固まり次第、早急に着手していく考えでございます。

続いて、その下、沼ノ端地区の「沼ノ端北9号公園整備事業」につきましては、拓勇東町にある沼ノ端北9号公園の老朽化した遊具の更新を予定しております。

さらにその下、勇払地区の「勇武津資料館多目的ホール等整備事業」につきましては、勇武津資料館に隣接するかたちで、踊りや太鼓の練習をする多目的ホールを新設すること等を検討しております。

最後に共通枠の1段目及び2段目については、「保健センター及び夜間・休日急病センター医療機器整備事業」でございまして、血圧計等の医療機器の更新を検討しております。

共通枠の3段目の「高齢者福祉センター備品等整備事業」については、高齢者福祉センターに、作品等を展示する展示用パネル等の購入を検討しております。

なお、これらの事業につきまして、取り急ぎ着手する場合には、会長、副会長へ相談して事業を進めさせていただきたいと考えております。

以上が令和2年度の事業（案）でございます。これらの事業につきまして、ご承認いただけましたら、今後、令和2年度事業として進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

## ◆会長

それでは、協議事項のア、「令和元年、2年度再編関連訓練移転等交付金事業」につきまして説明をいただきました。皆様からご意見ご質問をお伺いいたします。

A委員、どうぞ。

## ◆A委員

私だけ言うのは何かなと思って。時間が8時と言われたので、考えてはおるのですが。

まず、この予算なのですけれども、令和元年度の調整弁は良いのですが、令和2年に3地区小学校図書整備事業、そこに1000万円を持っていくのであれば、なぜこのときにもっと使ってあげて、僕は基本的に市立病院の医療機器というのは、違った分野で十分対応できる予算と思っているのです。

令和2年の急病センターですとか、そういうところに使うのならまだしも、毎回病院を差金調

整の欄に入れるというのは、いかがなものかと思うのです。この差金調整と書いたのは、ここ何年かではないでしょうか。

だから、この予算は航路下に使うのが前提ですから、共通に使っていけないとは言わないけれども、令和元年でも小中学校の図書が 800 万円で、次の年にまた 1000 万円組むのであれば、820 万をなぜ 800 万にしたのかと思います。

小さな金額かもしれませんが、翌年に 1000 万円を組むのであれば、もっと徹底してやってあげてください。僕は基本的に何回も言いますが、病院の予算は違うところで貰ってほしいと思っております。急病センターですとか、そういうところは構わないですけれども、あまりにもこの市立病院というのは、いかがなものかと思っております。何を買うのかちょっと不明なのです。

#### ◆会長

はい。事務局、お願いします。

#### ◇事務局

まず、図書のお話がありました。

平成 30 年度航路下地区の学校の充足率につきましては、今年新設いたしましたウトナイ中学校を除きますと、全て 90%を超えている状況でございます。中には 100%、例えば、植苗小学校で 111.5%、拓勇小で 113.1%でありまして、ウトナイ中学校が 23.7%ということで新設ということもあり、このような状況でございます。概ね 90%を超えている中で、今年度、800 万円を充てまして、整備をさせていただきたいと思っております。

加えて令和 2 年度につきましても、特にウトナイ中学校につきましては、今は充足率が 20%台ですので、現在の目標であれば、令和 3 年度までの 3 年間で掛けて、充足率を 100%目指すという考えでございますので、1000 万円ということで、毎年 500 万ずつの交付金を充てるという今の計画でございますので、図書の整備につきましては、何卒ご理解をいただきたいと思っております。

また、もう 1 点質問、市立病院の医療機器の関係がありました。

これも当初、こちらのほうに共通枠として入れさせていただいているのは、航路下 3 地区の方も市立病院に通われて、医療を受けるというような観点で、地域の方にご理解を頂いて、この共通の欄に入れさせていただきました。

我々としてもどうか市立病院の医療機器、財源的にも中々厳しいところもありますので、再編関連訓練移転等交付金を活用させていただきまして、毎年計上させていただいて、ご承認をいただいているわけですが、A委員がおっしゃる通り、夜間急病センター、それから保健センターの医療機器等々、今後予定してございますけれども、市立病院のほうにつきましても、今後ともご了承いただきたいと思っております。

私からは以上です。

## ◆A委員

時間がもうないので、これでやめさせていただきます。

まず、図書購入の問題です。中身なのです。充足率は上がっても、古い図書だけがずっとあります。今の子どもたちがスポーツの資料だとかそういうものを見ても、そういうものが全然ないというのが、それはこの航路下だけではなく、苫小牧市全体です。

古い図書を新しいものに更新しないで、それは率が上がったのかもしれないですけども、中身の問題なのです。古いものを、今の若い学生達とか、小学校、中学校もそうですけど、そういう問題なのです。

それを新しくしてやらなければ、中々その図書の購入率を上げたからと言って、中身をもっと調べてみてください。そうになっていないはずですよ。だからそこらへんを改善してあげないで、これからの若者に古い図書ばかり見せてどうするのかなと。

古いものも大事な部分もありますよ。そこらへんをもう少し研究されたら良いのかなと思います。

あと、学校だけですけれども、あらゆる施設にも図書は置いています。だから航路下のそういうところにもやるのであればやって、僕は病院を敵視しているわけではないのです。

だけど、市立病院については、他の予算で予算付けできる問題だと僕は信じているのです。なぜ、その再編関連訓練移転等交付金を充てないとならないのかちょっと理解に苦しむのです。差金調整、そんな言葉がここに該当する自体が僕は少しおかしいと思います。それは補助金ですからどこかで合わせないとならないのはわかります。だけど、やはり優先順位を考えてもらいたいと思います。

時間がもう8時になるようですから。これだけにします。

## ◇事務局

小中学校の図書に関しましては、A委員がおっしゃる通り、図書を買ってそれをきちんと整理して、新しいものをどんどん学校に配置して、子どもたちが新しいものを見ることができるようになることが大切な視点でございます。

今、小中学校については、小学校に図書の司書を配置しておりますが、中学校については、現在配置されていないという現状もございますので、そこも踏まえて図書整備というのを考えていかなくてはならないと考えております。小中学校の図書を増枠するという話もありますけれども、学校側のほうで対応しきれていないというのが現状でございますので、そこはご理解いただきたいと思います。

他の施設に図書を整備するという考え方は、これはごもっともな話でございますので、植苗ファミリーセンターや沼ノ端のコミュニティセンター、勇払の公民館等の図書に、これは充てていくことができますので、今後考えていきたいと思っております。

それから、市立病院の医療機器、これは差金整理という言い方がちょっと悪いのかもしれませんが、私たちはあくまでも市の予算を組む上では、個別な事業に対して、予算をいくらと

付けて、それに対して必ず入札行為が出てきます。入札をすると、交付金予定額より下がるケースがございますので、最後に最終調整弁ということで、大きな財布で行っている市立病院であれば、沢山の医療機器を買っておりますので、そこで調整させていただいております。

他の事業で余った分をここで調整しないと、また更に他の事業の予算を議会等につけなければいけないという作業が出てきますので、そういう意味の調整弁ということなのです。

残った事業の差金を最後に片付けるところで、市立病院を使わせていただいているので、ここは平成19年から再編交付金を使っておりますけれども、その当時からこの形でやらせていただいておりますので、何卒ご理解いただければと思います。

#### ◆A委員

最後に一言です。

意味が違っているのかもしれませんが、こういうのを本末転倒と言うのではないのでしょうか。以上です。

#### ◆会長

はい、あと何かありましたら、よろしいですか。

一言ひとつお願いします。

#### ◆C委員

ウトナイ中学校の協賛会の会長という立場も含めて、図書充足率が非常に低いということですね。本来、教育委員会で規模や人数も全部わかっているわけですよ。

その教育委員会の予算を組まないでこのお金を使うというのも、今、A委員が言っていたような目的外の使用にも該当するものと思っております。

ですから、市立病院の問題も含めまして、やはり再編交付金の用途について、もう少し勉強していただければ良いのかなと思っております。回答はいりません。

#### ◇総合政策部長

私が最後にしたいと思っておりますけれども。

交付金の使い道、A委員とそれからC委員からありました。

おっしゃる通り、やはり再編関連訓練の交付金というのは、地域の為に使うというのが、本来の目的ということでもあります。

ただ、そのような状況の中で、航路下地域の皆さんも含めて、健康管理に市立病院に通う方も多いただろうと判断の中で、一時からこういう形で市立病院の医療機器を整備して市民の健康を守っていくということで、航路下地域の方々にとっても、それは活用できる形の事業だということで取り組んできた経過があります。

ただ、おっしゃる通り、地域の為に、まずはどういったものを活用できるかというところがあ

って、その先に共通事項というのがあると思いますので、C委員もおっしゃった通り、これからこの交付金事業について、今一度私どもも考えますし、皆さんとも相談させていただきながら、協議をして、この事業計画というのを組んで行くような形を今一度検討してまいりながら、この事業計画を策定してまいりたいと考えておりますので、是非よろしく願いいたします。

◆会長

良いですか。

それでは、時間もありませんけれども、これで閉じてよろしいですね。

◆委員

はい。

◆会長

よろしいということでございます。

それでは、実は私も4年前に市立病院で助けていただいております。そういうこともございます。高齢化が進んでいる中で、そういう意味で大変ありがたいことだと思っています。

8時ということで、皆さんのご協力で終わることができました、心からお礼申し上げます。

これを持ちまして令和元年度第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会を終わらせていただきます。ご苦労様でした。